

課題番号	2-2	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・ 県単
研究課題名	野生動物の効果的捕獲技術の研究 〔誘引式くくりわなによるシカ捕獲試験〕				
担当者名	丸山 哲也・高橋 安則		研究期間	平成 22～28 年度	

目的

シカによる農林業被害や生態系への被害対策として捕獲の促進が急務とされる一方で、担い手である狩猟者の高齢化や減少傾向が進行している。そこで、労力対効果の高い捕獲技術として誘引式くくりわなの実証試験を行い、効率性や課題等を検討する。

方法

奥日光地区の白根山周辺と、足尾地区の可猟区において、餌を用いた誘引を伴うくくりわなによる捕獲を試みた（図1）。具体的には、獣道の周辺で、岩や立木、間伐材等がありシカの進入方向が限定される箇所には餌をおき、採食時に足をつくと想定される場所にわなを設置した（図2）。餌はヘイキューブと食塩を、わなはOM30（オリモ製作販売）を、捕獲時の止め刺しには電殺器を利用した。白根山は平成26年9月に、足尾は平成27年1月から2月にかけて実施した。



図1. 調査地

結果概要

白根山においては10基のわなを2晩設置した結果、1頭が捕獲された。捕獲効率は0.050頭/基（1頭/10基×2晩）であり、県内の狩猟（H24：0.001頭/基）に比べ高かった（表1）。白根山はシカの増加に伴う高山植物の衰退が確認されているが、徒歩で2時間以上かかる立地に加え、ハイカーの入山が多いことから、これまで捕獲が行われていなかった。本手法は高い捕獲効率に加え、必要とする人員や資材も少なくすむことから、有効な手法となることが示唆された。



図2. 誘引式くくりわな

足尾においては、延べ140基のわなを設置した結果5頭が捕獲され、捕獲効率は0.036頭/基となった（表1）。前年度に実施した保護区内の値よりは低かったものの、白根山同様通常の狩猟に比べると高い値となった。今回の実施場所は可猟区であり、かつ狩猟期間中であることから、実際の狩猟と同じ条件下での実施であるといえる。本手法を普及することにより、狩猟捕獲の促進につながると考えられる。

表1. 実施結果

地区	環境	実施日	延べわな数(基)	捕獲数(頭)	捕獲効率(頭/基)
足尾(※) (保護区)	天然林	H26.1.27 ～2.3	176	19	0.108
足尾 (可猟区)	人工林	H27.1.19 ～2.2	140	5	0.036
白根山	天然林	H26.9.16 ～9.18	20	1	0.050

(※)平成25年度の結果